



公立小学校への海洋学習・体験提供プロジェクト (海と日本2023)

実施完了報告書

目次

1. プロジェクトの概要
2. 全体総括（成果と展望）
3. 目黒区との連携における総括
4. 足立区との連携における総括
5. アンケート調査の総括

≪補足資料≫

- a. 実施プロセス
- b. プログラム詳細
- c. 教員向け研修とプログラム案内について
- d. アンケート調査の詳細
- e. 学校別プログラム実施詳細
- f. 広報活動について
- g. WEBサイトについて

プロジェクトの概要

自治体と連携して子どもたちに海洋教育・体験を提供をすることで 教育行政の海洋教育に対する意識改革を図るプロジェクト

〇目的

海洋教育は小学校の学習指導要領に加えられるなどその重要性が増している一方、各小学校ではリスク懸念に伴う海の忌避や経験不足等によって子どもたちに良質な海洋学習・体験機会を提供できていない。

本事業では、小学校などの教育機関と連携し、当該機関の取組みの一環として子どもたちへの海洋学習・体験機会の提供を行うことで、子どもたちに有意義な海との接点をつくる。これを通じて教員等の海体験への心理的ハードルを下げることで、小学校での自然合宿等において「海洋学習・体験」実施が当たり前の選択肢として入ってくる状態を目指すとともに、その経験・ノウハウづくりにも寄与することで、継続的に子どもたちと海とのより良い接点基盤を構築していくことを目的とする。

2023年度は、昨年足立区との連携で得たノウハウを活かし、目黒区への横展開を目指す。さらに、足立区での取り組みも継続実施し、実績を重ねていくことで行政・学校・地域事業者からの信頼を獲得し、教育行政や教員の海洋教育に対する意識改革を図っていく。

〇実施内容

1. 昨年のノウハウを活かし、千葉県勝浦市で臨海合宿を行っている目黒区の小学校における海洋学習・体験の充実化に向けて、目黒区および同区小学校と海洋教育・体験をテーマとした連携関係の構築。
2. 各校のニーズも踏まえた良質な海洋学習・体験プログラム(事前学習を含む)を、教育機関・地域事業者・海と日本プロジェクトのパートナーなどと協力して開発・集約し、実践。
3. 上記取組実績、および専門家等とのネットワークを確固たるものとし、他地域の小学校への横展開を見据えた基盤整備を推進。

全体総括

昨年度のノウハウを活かし目黒区への横展開に成功。教育委員会との交渉や区の校長会などでの説明を経て、信頼を勝ち得ることで8学校587名の児童にプログラムを提供することができた。

また、2年目の取り組みとなった足立区では、前年の評判を聞いた学校長や前年参加した教員からの推薦があって申込相談をしていく学校も多く、取り組みへの協力姿勢が現場レベルでも見られるようになるなど、信頼の積み重ねによる好ましい変化を見ることができた。

継続展開を行うことで各学校において海での活動に対するモチベーションの高まりを感じられるとともに、体験内容や報道連携の分野などで様々なチャレンジをしやすい土壌が整ってきていると感じられる。結果として、26学校2,128名（昨対184%）の児童にプログラムを提供する規模となり、継続展開することの意義・重要性を強く実感することができた。

これらの結果、目黒区・足立区双方で、計32学校、2,715名の子どもたち（昨対約240%）に海を学習・体験してもらうことを実現できた。

さらに地域行政を巻き込んでいくことで、地域内の適正な事業者と効率的かつ友好的な関係性が構築することができ、また市長のイベント視察も行われるなど、体験内容の整備や露出拡大など様々な面で相乗的な効果を見込める状態が広がってきている。

さらに、海へ入る体験への根深い忌避があり、突破していかなくてはならない課題が見えた。行政との取り組みにおいて、信頼を構築していくことが一番の近道となるため、足立区・目黒区における教育行政において、これまでの取り組みで築いた信頼・実績を起点に、教育委員会・小学校等との連携を強化して有意義なプログラムを継続実施し、教員レベルでの海洋学習経験を積み上げ、教育委員会や小学校として海体験への禁忌意識が強い現況の改善・意識改革を進める。それを以て、海洋学習を子どもたちに長期的に提供することの意義を見出し、その継続に向けた議論がスタートできる基盤、さらに意識改革を目指した広報活動の一環として現状把握の調査・直接アプローチを推進することで今後の横展開に向けた基盤を整えていきたい。

今後の展開を見据えた3つの成果

1. 目黒区での実施が実現（足立区での取り組みの横展開に成功）
 - 初年度の知見や実績を活用し、新たな区での取り組みを実現することができた。
 - 地域行政を巻き込み展開していくことでより最適なプログラムの開発・実施、さらには市長の視察などにつなげることができた。
2. 教育行政を取り巻く現状や課題などを把握
 - 上記を把握することで、配慮すべき点や巻き込んでいくべき人物として教育長がキーマンとなることなど、行政と向き合っていくうえでのポイントが分かった。
 - 足立区では教育長を巻き込んだ結果、教育長より感謝状を贈呈されるに至り、教育委員会として海洋学習・体験を推進していくという機運が生じた。
3. 事前事後アンケートの基盤作成
 - 児童の現在位置 & プログラムの有効性を見える化することで、更なる改善・精度向上を図るための基盤を確立。
 - 多地域展開したことで、地域特性から児童の体験格差があるという課題がみえてきた。これらの結果から、公立小学校と連携し、展開をしていくことの意義を確認できる結果となった。